

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.24	行	35行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の実施(十三地区)		河川名	淀川			
府県	大阪府	市町村	大阪市淀川区		地先	十三	

**現状の課題**  
 琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

**河川整備の方針**  
 生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向に連続性を持った生物の生息・生育環境を確保するとともに、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

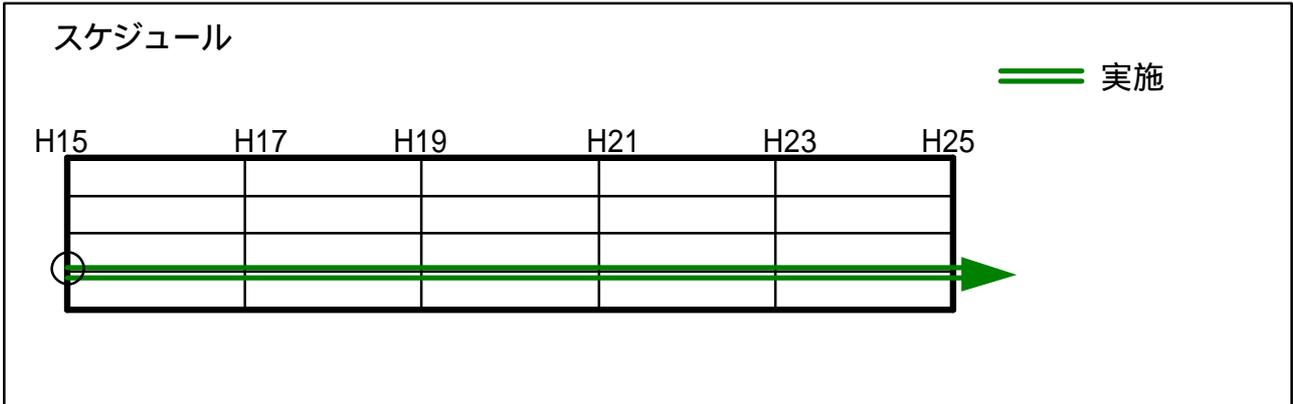
**位置図**



**具体的な整備内容**  
 かつて淀川にあった干潟の再生を図るため、汽水域干潟の保全・再生を実施する。

**検討内容**  
 干潟の保全  
 葦原の保全  
 環境の監視調査

面積 約14ha



現況写真



写真等



## 整備効果

### 1.事業効果

本地区は汽水域の中で最大の干潟及びヨシ原を有しており、底生生物の生息環境、鳥類の飛来等についても貴重である。本地区の保全を図ることで汽水生態系の保全に貢献できる。

### 2.地域との連携

十三地区の環境変化について地域のボランティアや学校等にモニタリング、維持管理、監視等を公募等の方法で参加していただく。

地域の自然観察会や、環境学習が行われており、地域に開かれた空間となっている。

## 提案理由 (代替案含む)

## 1.箇所決定理由

淀川で最大の干潟面積を有する場所である。生物種が多く確認されており、注目すべき種として、植物では、ウラギクやシオクグ、カニ類では、ハクセンシオマネキ、鳥類では、干潟を代表するイソシギが確認されている。淀川生態系の核となっている重要な場所であるため、保全を図る。

## 2.具体的整備手法

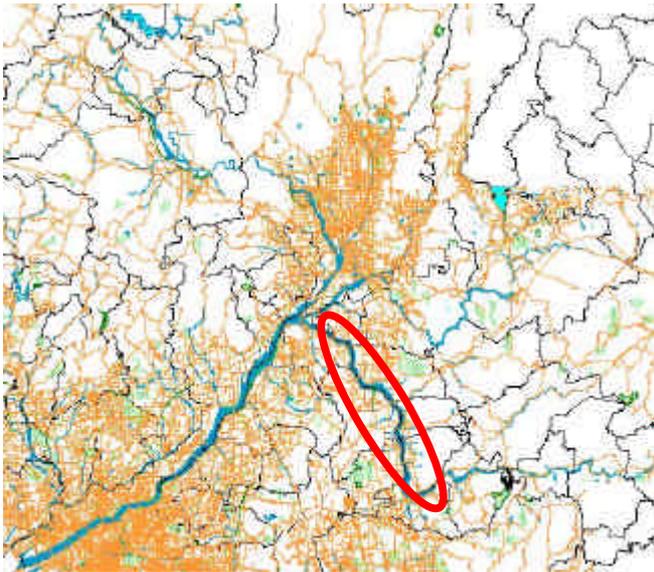
・干潟の保全  
・ヨシ原の保全  
・環境の監視調査

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.24	行	38行目
事業名	生息・生育環境の保全及び再生の実施(木津川中流部)		河川名	木津川			
府県	京都府	市町村			地先		

**現状の課題**  
 琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

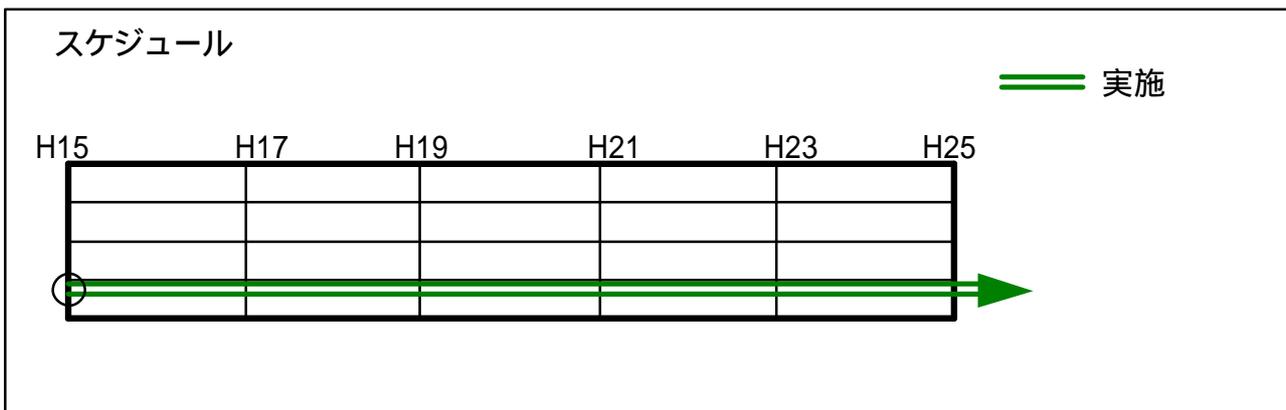
**河川整備の方針**  
 生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向に連続性を持った生物の生息・生育環境を確保するとともに、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

**位置図**



**具体的な整備内容**  
 かつての砂河川の再生を図るため、河川形状の修復を実施する。

- 検討内容**
- ・定期的な生物の事後調査
  - ・たまり調査(消長、形状、魚介類、植物)
  - ・地形調査(縦横断測量、河床材料調査、瀬・淵調査)



実施

生育・生息環境の保全および再生  
たまり 砂州の保全および再生 木津川中流部



木津川の河道の変遷 1997年 (12.5k ~ 18.5k)

澁筋や砂州の位置が移動している

イタセンパラ発見記事



1991.11.20朝日新聞夕刊

イタセンパラ密漁記事



1999.2.15 朝日新聞夕刊

## 整備効果

### 1.事業効果

木津川の中流域の河川環境は交互砂州が発達し、横断方向に連続した水辺ができており、河原植生が回復できると共に木津川の生態系を豊かに保つことができる。

## 提案理由 (代替案含む)

### 1.箇所決定理由

木津川の中流域は淀川水系を代表するような、水辺移行帯、たまり、砂州等の自然が作り出した砂河川の特徴ある地形を残した環境であり、木津川の自然環境の核として、保全及び再生が必要である。

### 2.具体的整備手法

・定期的な生物モニタリング調査  
・たまり調査 (消長、形状、魚介類、植物)  
・地形調査 (縦横断測量、河床材料調査、瀬・淵調査)

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.25	行	7行目
事業名	オオサンショウウオの生息環境を保全する		河川名	木津川上流			
府 県	三重県	市町村	木津川上流域	地先			

**現状の課題**  
 琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

**河川整備の方針**  
 生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向に連続性を持った生物の生息・生育環境を確保するとともに、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。



**具体的な整備内容**  
 オオサンショウウオの生息環境を保全する。

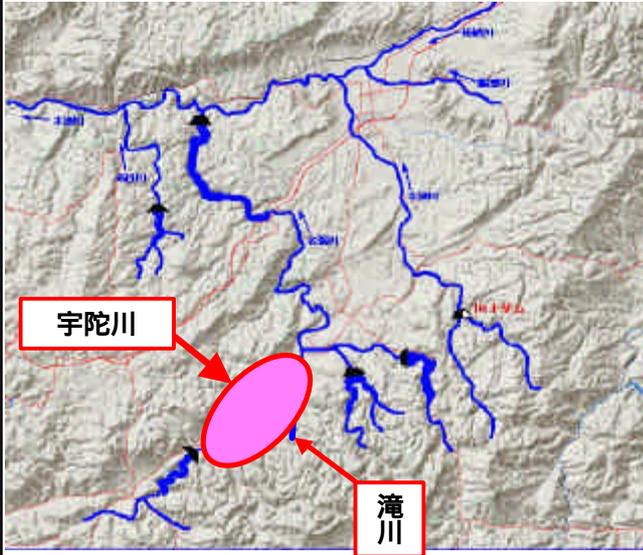
**スケジュール**

— 検討

H15	H17	H19	H21	H23	H25
○	—		○		

オオサンショウウオの上流移転と人工巣穴の設置

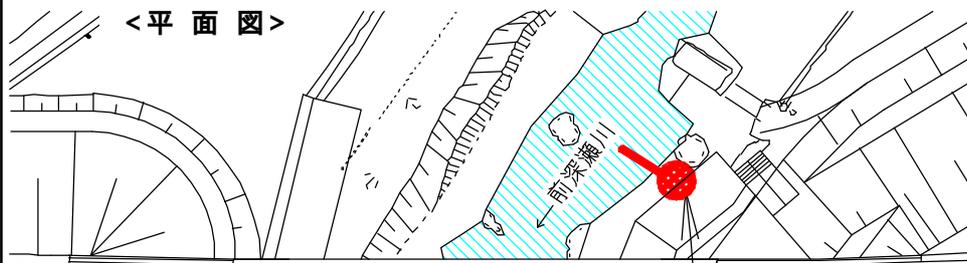
宇陀川 (滝川)



前深瀬川

オオサンショウウオ人工巣穴の設置 (前深瀬川の場合)

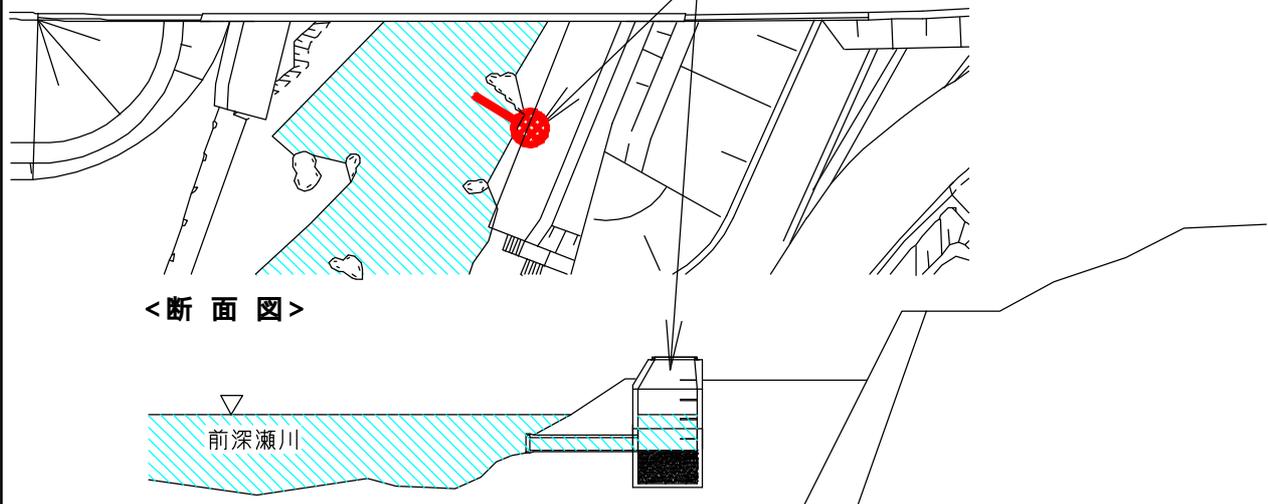
<平面図>



付替道路 (橋梁)

サンショウウオ人工巣穴設置

<断面図>



## 整備効果

### 1.事業効果

生息環境の消失及び悪化に伴い、オオサンショウウオの繁殖活動の維持に影響があると予測される。

本事業の実施により生息環境が改善され、オオサンショウウオの繁殖活動の維持及び前深瀬川・宇陀川(滝川)の生態系の保全が図られる。

### 2.施設管理者との調整

オオサンショウウオの移動を妨げていると考えられる農業用取水堰を改良するために施設管理者である水利組合等との調整が必要となるため、地域農業者との連携が図られる。

### 3.地域との連携

オオサンショウウオは、地域が誇れる貴重な生物であり、地域住民参加による環境学習会、環境パトロール、モニタリング等を実施し、オオサンショウウオの保全の意識を高めることにより、地域住民との連携が図られる。

### 4.他事業との連携

三重県で実施される前深瀬川の改修及びオオサンショウウオの保全対策との調整が必要となるため、三重県との連携が図られる。

## 提案理由 (前深瀬川の場合)

## 1. 箇所の選定理由

これまで 川上ダムオオサンショウウオ調査「保全検討委員会」でオオサンショウウオの保全対策についてこれまで検討を行ってきた。

この中で、建設事業の影響を受けるオオサンショウウオの他河川への移転については、その河川での遺伝子の攪乱、生態系への影響が考えられることから前深瀬川で実施することとした。

## 2. 具体的整備手法

- ・ 川上ダムオオサンショウウオ調査「保全検討委員会」で検討してきたオオサンショウウオの生息環境の改善試験を実施

〔 ・ 魚類及び底生生物の生息環境の改善  
・ オオサンショウウオの移動経路・隠れ家・巣穴環境の改善 〕

- ・ オオサンショウウオの生息環境改善試験地のモニタリングを実施
- ・ 試験地のモニタリング結果を反映させ見直しを行った生息環境の改善及びモニタリングを実施
- ・ 地域住民の意見反映・モニタリングの参加方法について検討

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.25	行	12行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(鳥飼地区)		河川名	淀川			
府県	大阪府	市町村	摂津市		地先	鳥飼	

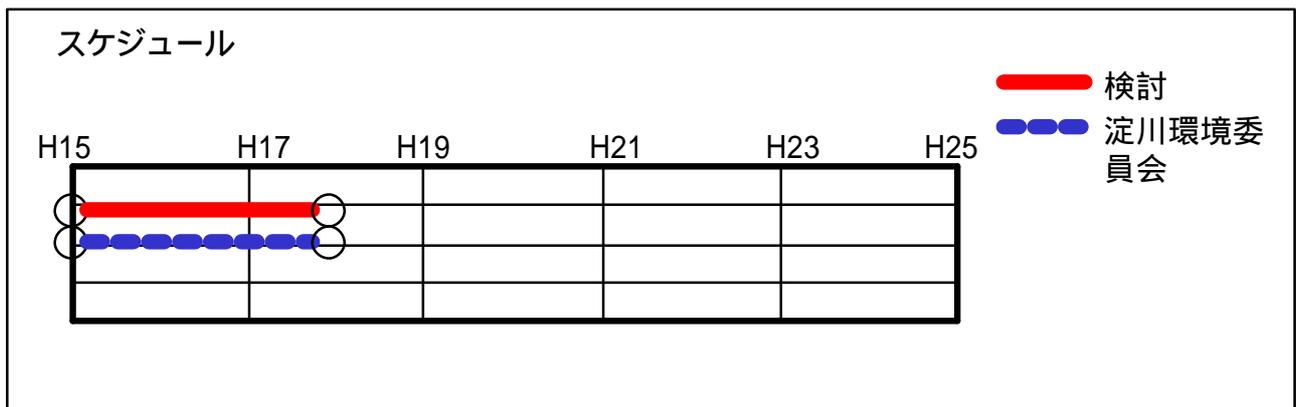
**現状の課題**  
 琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

**河川整備の方針**  
 生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向に連続性を持った生物の生息・生育環境を確保するとともに、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

**位置図**

**具体的な整備内容**  
 横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

- 検討内容**
- ・わんど・たまりの再生、創造
  - ・草原の再生、創造
  - ・対象エリアの環境調査(魚介・鳥・植物等)
  - ・保全対策後の生物環境回復の予測
- 面積 約10ha



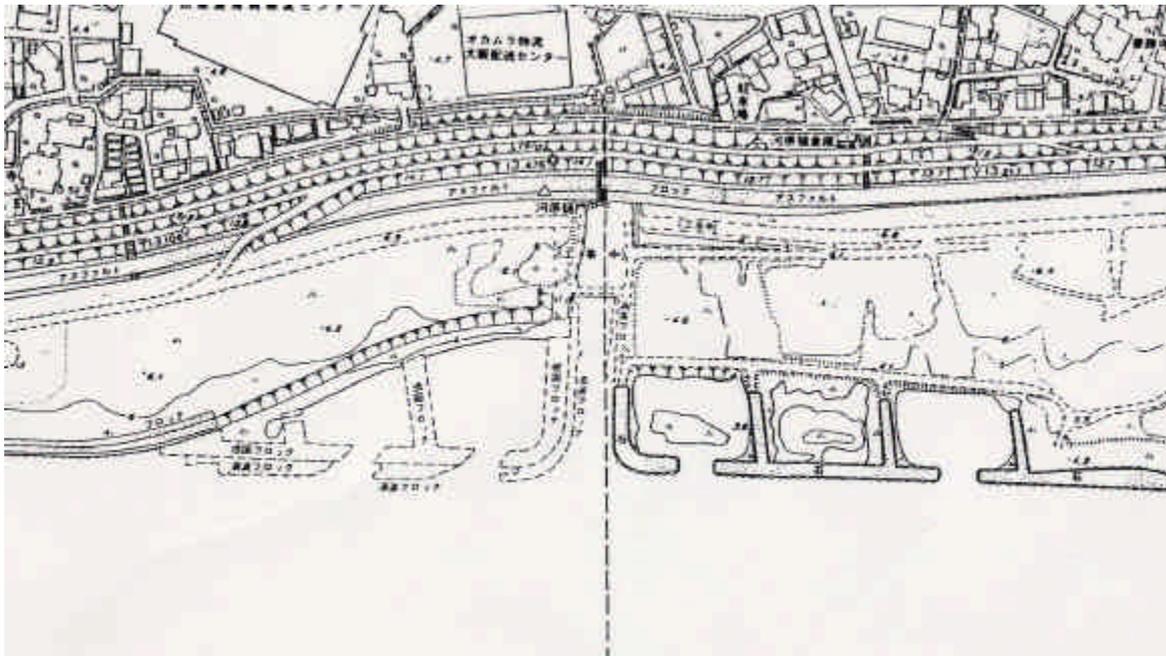
平面図

検討

わんど・たまりの再生、創造  
ヨシ原の再生、創造



平面図



## 整備効果

## 1.事業効果

人工わんどではあるが、群として多様な環境を有したわんどが整備されており、下流のわんど・たまりと水辺移行帯とを合わせて保全することで、生態的回廊としての効果が期待できる。

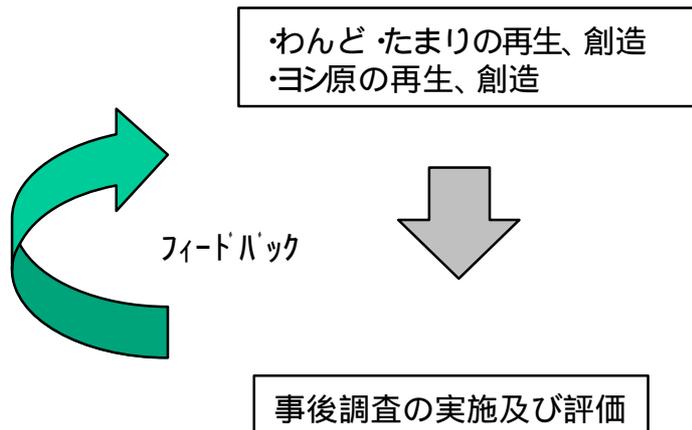


## 提案理由 (代替案含む)

## 1.箇所決定理由

人工ワンドではあるが、群として多様な環境を有したワンドが整備されており、淀川生態系の核となっているため、保全・復元の効果が期待できる。

## 2. 検討手法



説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.25	行	13行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(向島地区)		河川名	宇治川			
府県	京都府	市町村	宇治市	地先	向島		

**現状の課題**  
 琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

**河川整備の方針**  
 生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向に連続性を持った生物の生息・生育環境を確保するとともに、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

**位置図**

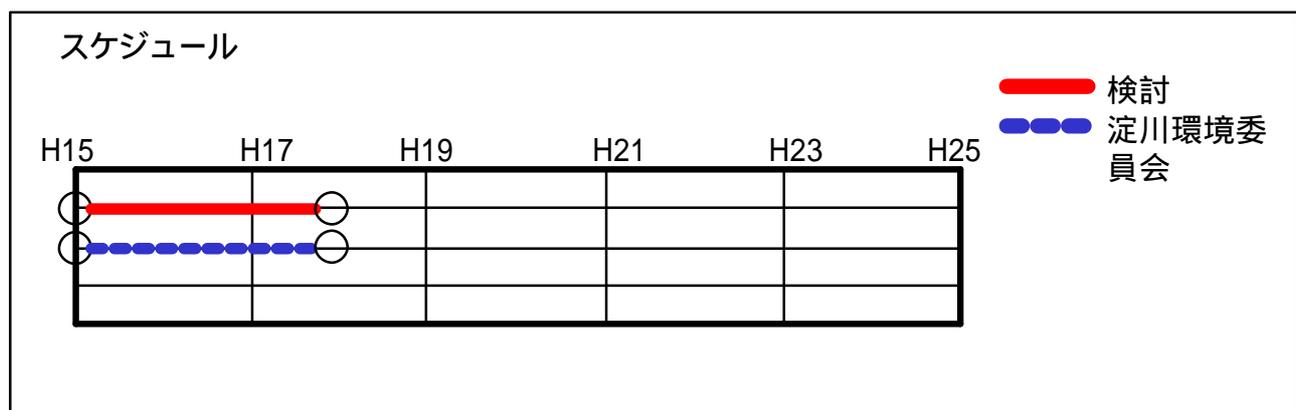


**具体的な整備内容**  
 横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

**検討内容**

- ・宇治川最大のヨシ原の再生の検討
- ・ツバメの近畿地方最大規模のねぐらの保全
- ・対象エリアの環境調査(魚・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測

面積 約100ha



現況写真



模型飛行機場やグラウンドの存在、架橋工事による周辺環境の改変、など的人為的な攪乱により現況では好ましいヨシ原となっていない



向島地区にとって好ましいヨシ原の再生・創出

状況

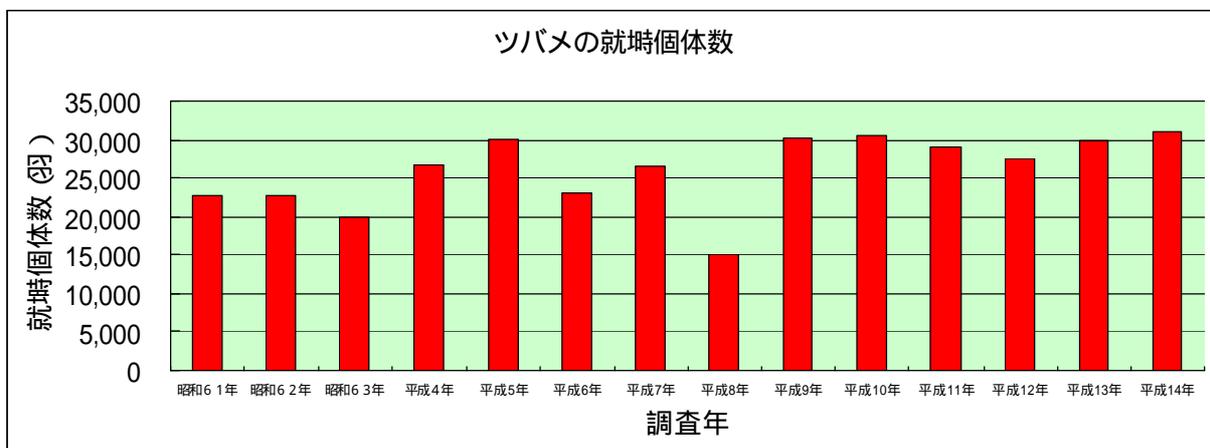


**ヨシ・オギ群落 (ツバメの埭)**

整備効果

1.事業効果

宇治川向島のヨシ原は、非湿地性のヨシ群落を形成しており、ヨシ群落の保全も重要であるが、近畿地方で最大規模のツバメのねぐらを確保するものであり、河川生態系の保全が図られる。



## 提案理由 (代替案含む)

## 1.箇所決定理由

水位の低下により川沿いの攪乱域や湿地帯が減少したことで、生物の生息環境も失われつつある。広大なヨシ原は多様な生物の生息、生育場所であり、淀川生態系の核となっているため、その保全・復元による効果が期待できる。

## 2. 検討手法

- ・宇治川最大のヨシ原の再生の検討
- ・ツバメの近畿地方最大規模のねぐら地の保全
- ・対象エリアの環境調査(魚・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.25	行	14行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(中津地区)		河川名	淀川			
府県	大阪府	市町村	大阪市北区		地先	中津	

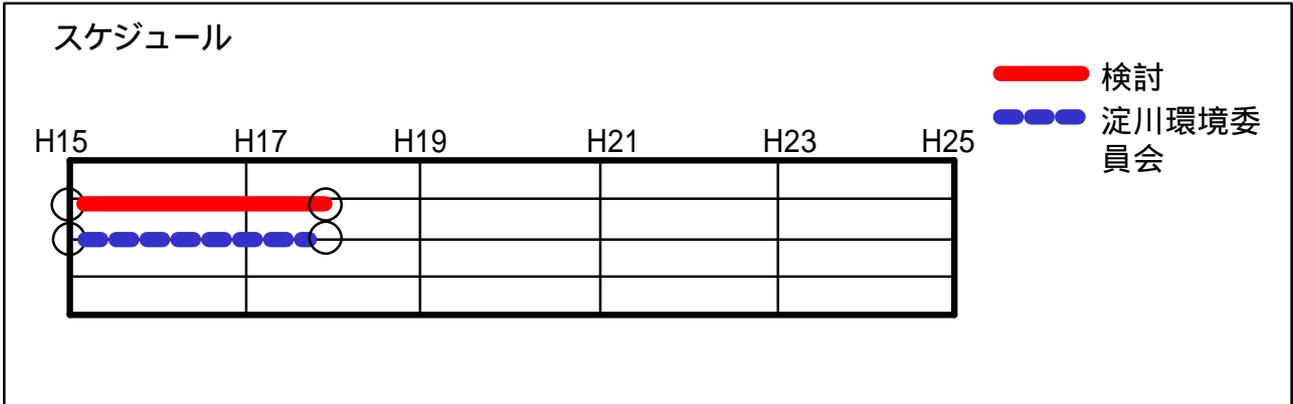
**現状の課題**  
 琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

**河川整備の方針**  
 生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向に連続性を持った生物の生息・生育環境を確保するとともに、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

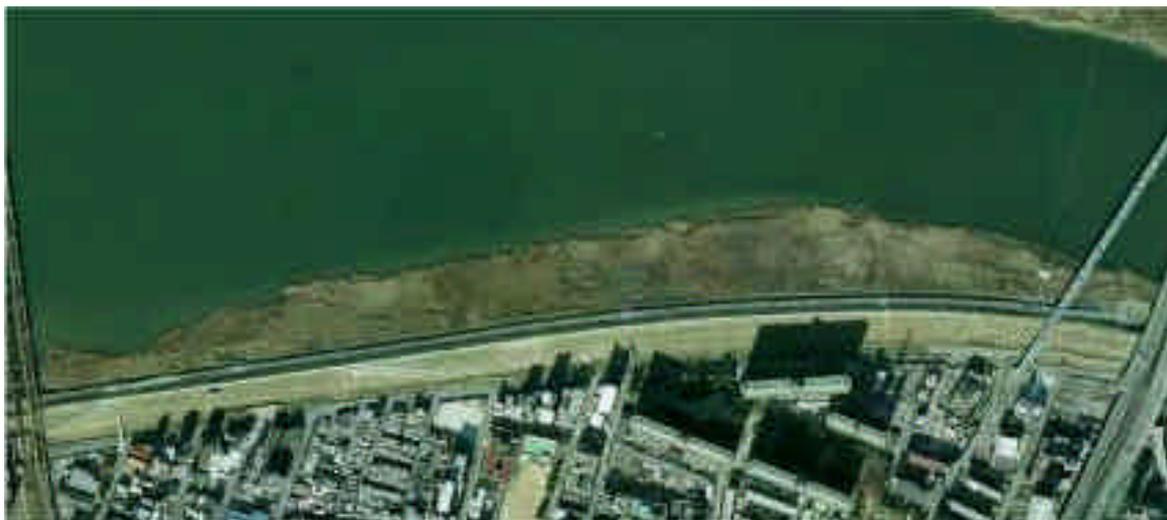
**位置図**

**具体的な整備内容**  
 横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

- 検討内容**
- ・干潟の保全・創出の検討
  - ・葦原の保全・創出の検討
  - ・対象エリアの環境調査(魚介・鳥・植物等)
  - ・保全対策後の生物環境回復の予測
- 面積 約7.5ha



現況写真



中津地区の現況干潟とヨシ原

現況写真

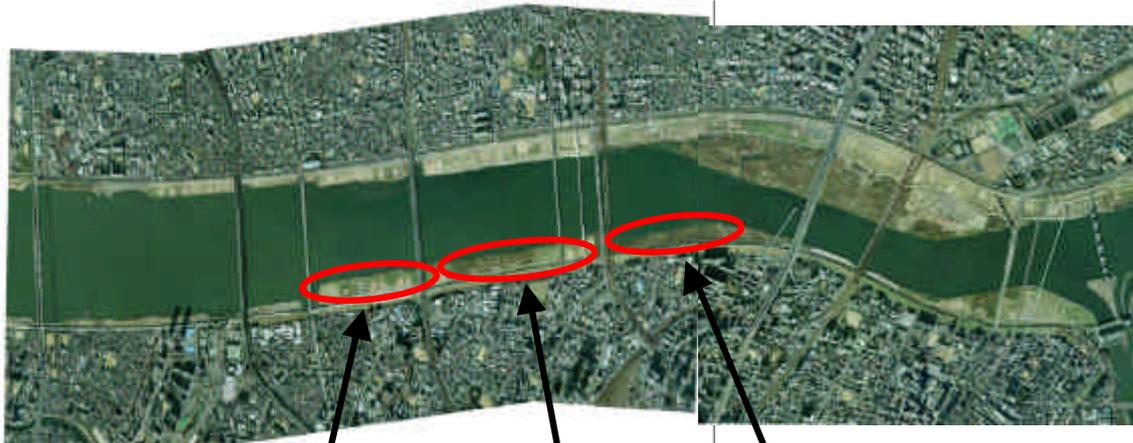


中津地区の現況干潟とヨシ原

## 整備効果

## 1.事業効果

汽水域の干潟、及びヨシ原として大規模な自然環境を有しており、底生生物の生息環境、鳥類の飛来等からも貴重である本地区及び海老江地区、大淀地区との連続性を図ることで、生態環境の保全が図られ、汽水域生態系の保全に貢献できると考えられる。



海老江地区

大淀地区

中津地区

## 提案理由 (代替案含む)

## 1.箇所決定理由

広大なヨシ原と干潟が残存しており、注目すべき生物として、植物では、ウラギク、鳥類では、干潟を代表するイソシギ、ヨシ原を代表するセッカが確認されている。淀川生態系の核となっている重要な場所の一つであり、大淀地区、海老江地区との連続性を図ることにより、汽水域生態系の保全効果が期待できる。

## 2. 検討手法

- ・干潟の保全・創出の検討
- ・ヨシ原の保全・創出の検討
- ・対象エリアの環境調査(魚介・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測